

## トピックス

### 集団風邪の発生について(第 1 報)

1 月 14 日、今シーズン最初の集団かぜの発生が愛知県内（名古屋市を除く）の 7 校の小学校から報告されました。これらの小学校では、1 月 15 日から学年閉鎖が 3 校、学級閉鎖が 4 校で実施されます。

## 流行状況

### インフルエンザ

\*1 月 14 日付でインフルエンザ警報を発表しました。

定点当たりの報告数は 7.28（前週 6.04）と**更に増加**

インフルエンザの予防にはワクチンの接種が有効です。一般に、ワクチンを接種しておくこと、たとえインフルエンザを発症しても、軽症で経過することが期待できます。ただし、ワクチンの十分な効果を得るためには、早目に接種されることをお勧めします。

### 厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ

インフルエンザ Q & A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。

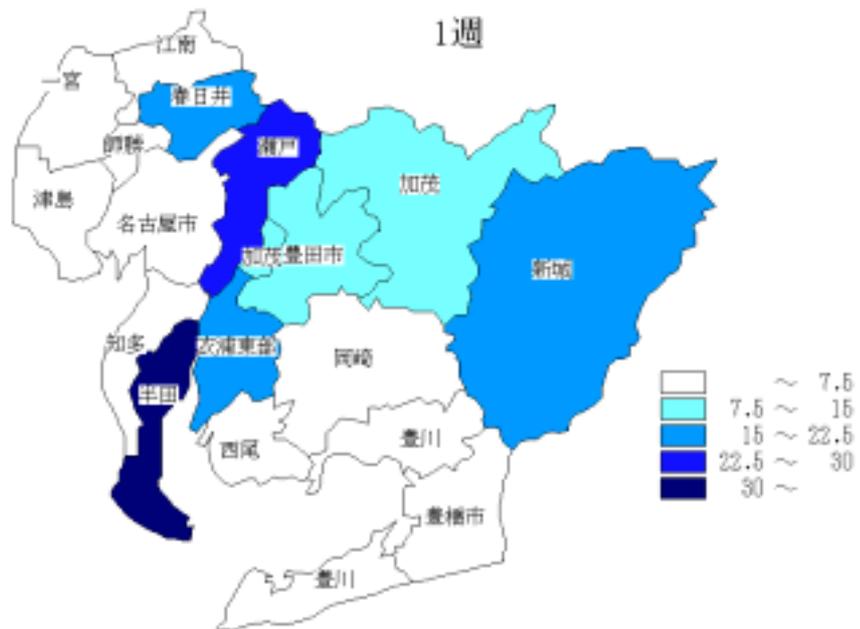
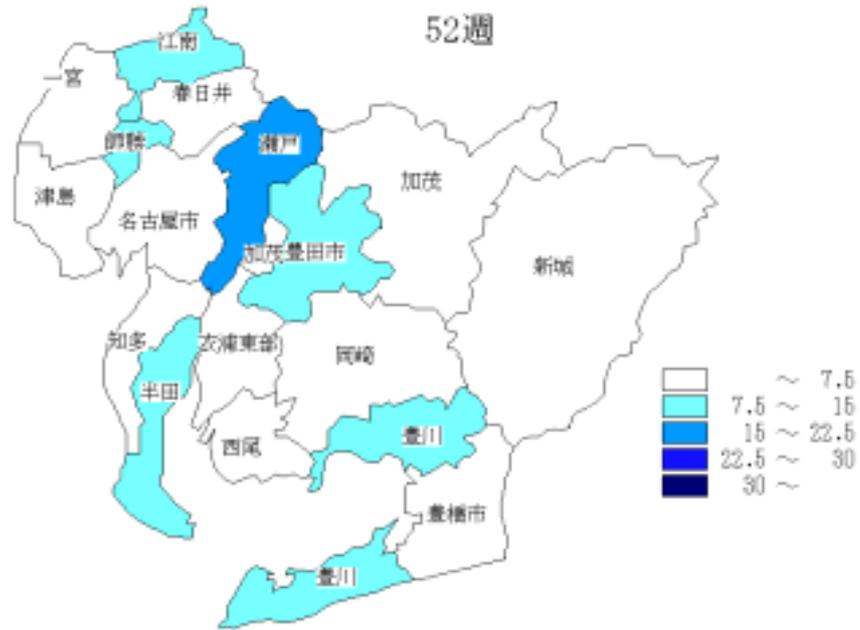
<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>



感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

## インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	52週	定点 当たり	1週	定点 当たり		52週	定点 当たり	1週	定点 当たり
名古屋市	343	4.90	83	1.19	岡崎	18	1.50	54	4.91
瀬戸	168	18.67	259	28.78	衣浦東部	64	5.82	170	15.45
津島	9	1.29	1	0.14	西尾	13	3.25	6	1.20
師勝	46	11.50	8	2.00	豊田市	62	7.75	109	13.63
一宮	63	3.94	35	2.19	加茂	4	1.33	43	14.33
春日井	64	7.11	201	22.33	豊橋市	55	6.88	59	7.38
江南	50	8.33	26	4.33	豊川	93	10.33	46	5.11
半田	71	11.83	215	35.83	新城	3	1.50	38	19.00
知多	28	4.00	38	5.43					

半田は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生警報の開始基準値は定点当たり 30 人です。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

年末年始の休日にもインフルエンザと思われる症状の患者さんが多く感染性下痢症児もかなり急患でおとずれました。

(尾西市 城後小児科)

すべて A 型

(一宮市 医療法人かすがい内科)

インフルエンザ(12月31日のみ)、7care ありました。  
水痘も多いようです。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

8歳女マイコプラズマ肺炎

インフルエンザ(A型)が出て参りました。

(春日町 丹羽医院)

### 尾張東部地区

A 型インフルエンザが流行みられます。

水痘も流行あるようです。

その他溶連菌感染症、流行性耳下腺炎散発です。

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

インフルエンザ 5 例ありました。(全て A 型) 2 例はワクチン接種済みです。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

1 歳児の溶連菌感染症が 1 名みられました。

他は感染性胃腸炎が多かったです。ロタウイルス(+)も 3 名ありました。

(春日井市 かがわ北病院)

3 歳水痘は津市からの帰省中の例です。

インフルエンザはキャピリア Flu A による診断です。

12/27 の検体ですが A 群溶連菌が 1 例検出されました。

(春日井市 竹内医院)

インフルエンザ A 少し流行している。

(小牧市 小牧市民病院)

インフルエンザは A が 10 名、1 名が B でした。B の 1 名は東京からの帰省者です。

(小牧市 志水こどもクリニック)

インフルエンザ A 10 歳女、13 歳女

(半田市 医療法人林医院)

インフルエンザ A 型です。

(南知多町 医療法人大岩医院)

### 西三河地区

インフルエンザはいずれも A でした。

(岡崎市 花田こどもクリニック)

2 歳女 A 型インフルエンザ

(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)

---

インフルエンザ A 型 12 名  
インフル A B クイック A ( + )

( 岡崎市 永坂内科医院 )

迅速キットで確認

いずれも A 型で 7 歳男は弟より感染。30 代の夫婦は子供より感染。

( 岡崎市 村山医院 )

FluA ( + ) 5 歳

( 刈谷市 田和小児科医院 )

インフルエンザ A 流行してきました。

( 知立市 宮谷クリニック )

インフルエンザ A 41 歳女 ( インフル A 、 B クイック陽性 )

ヘルペス口内炎 10 カ月女

( 西尾市 やすい小児科 )

インフルエンザ A 型 5 人

( 西尾市 山岸クリニック )

インフルエンザ 36 件は全て A 型です。

( 三好町 三好町立三好病院 )

---

## 東三河地区

---

1 月 4 日の仕事始めから、インフルエンザ A 型が多くみられました。昨年より流行のはじまりが早いと思います。

( 豊川市 ささき小児科 )

## 1 ~ 3 類感染症の発生状況 ( 愛知県 )

発生報告なし

## 全数把握の 4 類感染症の発生状況 ( 愛知県 )

発生報告なし

## 第51週(14年12月16日～12月22日)の4類感染症（全国）

定点把握の対象となる4類感染症（週報対象のもの）

インフルエンザは定点当たり報告数が5.22と増加し、過去5年間の同時期に比べかなり多くなった。都道府県別では、福岡県（29.3）、佐賀県（16.6）、大分県（15.0）、広島県（13.3）、長崎県（11.3）などの西日本の都道府県で定点当たり報告数が二桁となった。岩手県（0.2）と青森県（0.2）からの報告は依然として少ない。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は過去5年間の同時期に比べやや多く、都道府県別では秋田県（2.6）からが多い。他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいないが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は依然として多く、福井県（3.6）を始め、15都道府県から2.0以上の報告があった。感染性胃腸炎の定点当たり報告数（10.9）は今週も減少したが、三重県（27.1）を始め半数を超える都道府県で引き続き10を超えている。水痘の定点当たり報告数は引き続き多く、都道府県別では、福井県（第50週が7.1、第51週が4.1）からの報告数は減ったが、佐賀県（5.5）、宮崎県（4.9）、大分県（4.8）等の報告数が増加した。伝染性紅斑の総報告数には特に変化はないが、北海道に全体の約四分の一が集中している。麻疹（成人麻疹を除く）の定点当たり報告数は0.03であるが、福島県（0.5）、宮崎県（0.3）、青森県（0.2）の3県からの報告が4割を占めた。流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎の定点当たり報告数は全国的には減少しているが、前者は岩手県（3.8）、秋田県（3.3）をはじめとした東北地方（2.29）と鳥取県（2.2）で、後者は宮崎県（4.8）と高知県（3.0）が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数（0.23）は減少したが、青森県（2.5）と秋田県（1.3）から非常に多く、東北地方（0.71）の報告数は全国レベルの3倍となった。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供）

詳細は感染症情報センター - のホ - ムペ - ジ（<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

明けましてお目出度うございます。旧年中は何かとお世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。今回は年末休みと重なって連絡が遅くなり申し訳ありませんでしたが、昨年末のまとめをお送りします。先生方の本年のご活躍を祈念いたします。

- 1) 名古屋市内：第一日赤有吉先生からインフルA、ウイルス性胃腸炎（要入院例が目立つ）、ムンプス、水痘、マイコプラズマ、川崎病、RSウイルス感染症多い、名鉄病院宮津先生からインフル（Aのみ。入院例あり。ワクチン接種あるものや家族内感染あり）、年長児の高熱と嘔吐を伴う下痢症多い、城北病院渡辺先生からはインフル急増、ワクチン未接種者が多いのを痛感、乳幼児のRSウイルス感染症多い、千種区今枝先生から溶連菌感染症（紅斑、ペニシリン有効）目立つ、三菱病院岩間・入山先生からロタ（-）の嘔吐下痢症（要入院例多い）、マイコプラズマ、細菌性下痢（病原性大腸菌O1、O166、カンピロバクタ-）、RSウイルス感染症、中京病院柴田先生からインフルの流行、嘔吐下痢症（ともに要入院例目立つ）、RSウイルス感染症、労災病院山田先生からインフルA散発、RSウイルス多く生後12日の例あり、ロタ（-）・アデノ（-）の急性胃腸炎多発、大同病院水野先生から急性胃腸炎（嘔吐、腹痛だけの例から下痢頻回の例に）、肺炎（RS、マイコプラズマ）やや減少、年長児の咳発作例目立つとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生から感染性胃腸炎多発中で溶連菌感染症、水痘、ムンプスが散発、インフルAの流行はじまる、江南市から感染性胃腸炎・感冒性嘔吐下痢症が多発中で入院例目立ち、川崎病、マイコプラズマ肺炎あり（昭和病院西村先生、愛北病院露木先生）、瀬戸陶生病院山口先生からインフルAとRSウイルス感染症の入院増加、ムンプス髄膜炎・同脳炎あり、常滑市民病院上田先生から溶連菌感染症、ウイルス性胃腸炎（脱水目立つ）、RSウイルス感染症、マイコプラズマ感染症目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からインフルA、RSウイルス増加、マイコプラズマが多く、ロタウイルス、溶連菌感染症散発、糸球体腎炎とル-プス腎炎各1例入院、加茂病院梶田先生からRSウイルスの細気管支炎・肺炎多発、嘔吐を主体とする急性胃腸炎が目立つ、岡崎市民病院小児科から水痘流行が続き溶連菌感染症散発、RSウイルス多いが軽症、安城更生病院小川先生から水痘が多くRSウイルス感染症の入院目立つ、知立市近藤先生からロタ下痢症と年長児の下痢症多発中で水痘やや増加、インフルAとアデノ扁桃炎目立つ、刈谷市田和先生から嘔吐下痢症と水痘、インフルエンザ様疾患いずれも散発、碧南市永井先生からAインフルが出始め、肺炎が目立つ、豊橋市から水痘、マイコプラズマ肺炎、感冒性胃腸炎、インフルエンザが目立つとのお手紙でした（市内長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。

**2002年11月15日(77巻46号)**

インフルエンザ集団発生：マダガスカル。02年7月-8月。7月中旬、首都アンタナナリボ南方高原地帯農村部に気道感染症による死亡例多発、保健省とパスツ-ル研による調査開始。咽頭ぬぐい液からインフルA(H3N2)分離。全国調査では発生のピークは8月22日。9月19日時点で30304例(754例死亡)。医療機関のない農村部主体。罹患者は5歳以下の小児に多いが死亡例は60歳以上の高齢者に多く、人口周密・例年にない冬期の寒冷/高湿度などが関与している。分離ウイルスは02年南半球の流行株、ワクチン株と同じ。当局はサ-ベイランス、住民教育、細菌合併症用の抗生剤の準備を進めている(全国規模の流行なのでワクチンは推奨されていない)。

インフルエンザ：02年10-11月。カナダ：ウイルス検査中。フランス：A型。ポルトガル：A(H3N2)。スイス：散発。

ポリオ：世界。01-02年。02年の野生株分離例数：インド815、ナイジェリア136、パキスタン57、アフガニスタン8の他はほぼ0。

**2002年11月22日(77巻47号)**

ワクチン副作用：ワクチン安全性に関する委員会勧告。02年1月。99年WHOによりワクチン安全性に関する専門家委員会が発足：The Global Advisory Committee on Vaccine Safety(GACVS)。世界規模における緊急な問題に関して年2回委員会を開催。本報告は02年7月、第6回会議までの主な話題のまとめである。

ワクチン保存剤として添加されている水銀化合物の安全性：具体的にはDPTワクチンなどに添加されているチメロサル。これまでの調査では発育障害、中枢神経系障害や全身・局所障害などの明確な発生はなく、従来どおりの使用が勧告されている。

B型肝炎ワクチンと白血病：カリフォルニアの1地区から急性リンパ性白血病の発生報告あり。勧告：詳細な調査継続は必要と思われるがB肝ワクチンの利点からは当分継続。

B型肝炎ワクチンと多発性硬化症：フランスで報告。勧告：偶発的な例かトリガ-なのかを含め脱髄疾患全体について調査を進行しつつ定期接種は継続。アルミニウム添加ワクチンと筋炎：フランス。肩三角筋のマクロファ-ジ浸潤を伴う炎症。可能性はあるがさらに疫学調査が必要。勧告：一般的なワクチン中止の必要なし。

経鼻ワクチンと顔面神経麻痺：スイスで認可されたインフルエンザ不活化経鼻ワクチン接種後顔面神経麻痺の報告があり、メ-カ-は製造を中止。

インフルエンザ：ワクチンと治療薬。02年10月のWHO専門家委員会。各国、各地域の調査を実行し、対策の目標設定、目標順位を明確にすること。大発生時におけるワクチン接種：ワクチン供給、緊急製造の問題。ワクチン接種の目的・優先順位としてはハイリスク者の死亡・入院を減少、発病率の減少であり、ハイリスク者や医療従事者の接種が中心となるが流行初期の対策が重要である。抗インフルエンザウイルス薬剤：ハイリスク者に対する予防投与は流行発生後2-4週。治療薬としては発病後48時間以内が勧告されている。予防・治療を目的とした調査方法・項目について勧告されている。

愛知県感染症情報

2003年第1週 (平成14年12月30日～平成15年1月5日)

愛知県衛生研究所

		定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	1,391	0	35	295	226	14	9	24	0	0	2	2	57	1	1	0	0	1	1	0	0
総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	1,308	0	34	221	200	12	9	23	0	0	2	2	52	1	1	0	0	1	1	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	83		1	74	26	2		1					5								
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	259		2	4	7	1		1					6								
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1			3	4			2													
尾張中部	師勝	4	4	1	1		8			12	1					2											
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	35		4	21	14	4	2														
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	201		5	16	8	2	1	3					3								
	江南	6	6	1	2		26			23	13			2					3								
知多半島	半田	6	6	1	2	1	215			21	10	2		5			1	12									
	知多	7	7	2	2		38		4	20	9			2													
西三河南部	岡崎	11	7	2	2	1	54		1		42		1	2					6	1							
	衣浦東部	11	11	2	4	1	170		10	17	42	1	1	3					11								
	西尾	5	5	1	2	1	6		6	22	11		2						1				1				
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	109				10						1	7						1			
	加茂	3	3		1		43			3	8								2								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	59			11	6	2	2	3							1						
	豊川	9	8	1	2	1	46		2	48	15																
東三河北部	新城	2	2			1	38												1								

\* 平成15年1月より岡崎保健所管内の額田郡幸田町(2定点)の報告については、西尾保健所報告となりました。

